



令和5年(2023)6月24日 第65号

高槻・五領の環境と 子どもの未来を 守る会 News



「ヨシ笛サークル鶉殿のかわせみ」 またもや出番🍀

上牧小学校から要請がありまして、6/3(土)父兄参観日の休み時間の10分間にヨシ笛演奏。

3曲「夕焼け小焼け」「夏は来ぬ」「ローレライ」練習を積み挑みました。

演奏場所中庭で、当日のお天気は程好くでしたが、風が少し強く譜面や譜面台までが飛ばされるアクシデントがあり、直前の練習成果が思うように出せずで、反省ばかりでしたが、譜面台の足をいっぱい広げる等普段室内での演奏では知る事の出来ない学びもありましたし、曲としてはお恥ずかしい部分もありましたが、ヨシ笛の存在や音色をお届け出来たので、次回に繋げる良いお時間となりました。

C.Y



高槻市 令和5年度 防災講演会 報告

講演講師 越山健治関西大学社会安全学部教授

防災講演会に出席して

令和5年度防災講演会が、高槻市及び高槻市市民防災協議会の主催により、6月18日(日)、10時～12時の間、高槻城公園芸術文化劇場北館 中ホールにて開催されました。講演内容は、越山健治関西大学社会安全学部教授による、「これまでの防災、これからの防災」と題された講演と、パネラーに第8中学校2年生の生徒3名を迎えてのコーディネーター越山先生によるパネルディスカッションの構成でした。中ホールはほぼ満席、濱田高槻市長の挨拶から始まりました。

講演内容をできるだけ判り易く記述したいと思います。今回は、講演資料が配布されませんでしたので、手元メモで出来るだけ正確を期したいと思います。また、キーワードは、「災害に備えない防災」という事で、この言葉を頭において以下をお読みください。

大阪北部地震から5年が経過、被害にあわなかった人は、そろそろ忘れ始めている。しかし、この地震の教訓は、今後の防災を考える場となった事。この地震の家屋被害状況では一部損壊家屋が非常に多く、55,081棟にもなる。一部損壊は国の公的支援から外れるので、住宅弱者にとり再建・復旧が簡単でない災害であった。また、この地震は都市機能が持つ弱点(災害の種)を明らかにした。エレベータ停止、(停電、断水、ガス遮断)による生活不全、交通ネットワークの断絶、通信インフラの維持不能、災害時購買行動による商品の欠如等があげられる。被害の大きさは、自身の被災の大きさ+地域の防災環境で決まる。

「これまでの防災」では、その目標地点を決め、被災を防ぐ方法を考える。災害の原因を究明し、それを取り除くことを考える。しかし、被害、被災状況は一人一人が違っている。防災対策(避難時の持ち物、食品備蓄等)は継続するのも難しい。災害の記憶が薄れるとともに、防災にも急速に関心が薄れる。共助にあきがる。自分の為の防災の限界がある。

「これからの防災」はどうあるべきか。人の為の防災・人の為の自助「情けは人の為ならず」を考える。自助が共助を可能にし、公助を有効にする。「自分の為の防災」には限度があるが、「人の為の防災」には可能性がある。また、他者を意識した防災・減災・災害対策は楽しい。

「災害」を日常に組み込む。「今ならどうする」をやってみる。「おかしいな」という感覚を高める。特効薬より体力づくりを重要視する。日常の中にある防災を続ける。防災も街づくりである。街づくりにはコミュニティが大事。コミュニティとは:何かを共有するもの同士がコミュニティを形成する。当然、地域はすぐには変わらない。誰のための地域活動か?「ほぼ「次の世代」のための活動」と思う事。また、被害がない人こそ「実行」する事の重要性を考えておくこと。「防ぐ」から「切り抜ける」へ!(都市居住は依存性によって成立しているので、その中で切り抜けるのが大事(おおよそ1週間)。

裏面2ページに続く

⇒ 1ページより 続く

「すぐ役に立つ地域防災？」より「日常に役に立つし、非常時にも役に立つ活動を目指す。

日常の防災対策の肝 「普段から変化を感じる力」 「非常時の想像力」

大規模災害対策の肝 「いろいろな資源を如何に活用できるか」

これからの防災は、『災害に備えない防災』を考えるべき！

パネルディスカッションの報告は割愛します。

M.M



スマートフォン等で確認できる防災情報

避難情報発表時等に自動的に情報を受信する方法

①緊急速報メール (エリアメール)

専用の警報音でお知らせし、自動的に画面に表示されます。

<必要なこと>
設定不要

※原則、自動的に受信します(端末の設定を確認してください)。ただし、一部対応していない機種がありますので、詳しくは携帯電話会社へお問い合わせください。

②市公式LINE

災害時の情報をLINEのトーク画面でお伝えます。

<必要なこと>
二次元バーコードを読み取り、友だち追加



③(公式)高槻市防災情報ツイッター

災害時の情報をツイートします。

<必要なこと>
二次元バーコードを読み取り、フォロー



※ツイッターアカウントがなくても、ツイート内容の確認は可能です。



詳細は、防災/ハートブック(2022)2版(保存版)等をご確認ください。また、不明点があれば危機管理室(072-674-7314)へお問い合わせください。

7月22日(土)の守る会 開催時間変更します。

14時～15時

“五領ふれあい祭り”16時より開催の為

五領・鶴殿写真情報

2023年6月16日他

撮影：大倉清教氏

大倉氏は淀川河川敷の鳥を中心に五領地区の自然を撮影しておられます。氏のホームページには毎日のように写真が掲載されます。

以下の写真は、氏のFacebookより主に鳥の写真を転載させて頂いております。

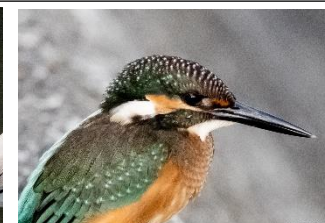
ホームページ：<https://www.facebook.com/Kiyonori.Ookura>



カワラヒワ 改めてみるとバックがきれいです。



朝餉をGET アオサギ



ドアップにも耐えられます(^-^)



淀川の水面を飛ぶツバメ



カワウの着水



きれいな声で鳴くホオジロ

発行：高槻・五領の環境と子どもの未来を守る会

代表：上田 博夫

住所：〒569-0003 大阪府高槻市上牧町1丁目3-17 上牧公民館内

電話番号：090-2283-1619 (村井)

ホームページ：<https://takatsukigoryo-mamorukai.jimdofree.com/>

編集部：最近よくコミュニティについて考える。コミュニティとは、人間が、それに対して何らかの帰属意識を持ち、かつその構成メンバーの間に一定の連帯、ないし相互扶助の意識が働いているような集団と理解される。今回、何かを共有するもの同士がコミュニティを形成するとの理解を知った。確かに、共有するものが無い場合は、絵にかいたコミュニティになっている気がする。

次回「守る会」定例会は2023年7月22日、第4土曜日

14:00～15:00、上牧公民館(上牧町本澄寺前)で開催します。

連絡は、事務局村井(masa569@tcn.zaq.ne.jp)(090-2283-1619)迄